

# プレス技術

1  
Jan.  
2019  
Vol.57  
No.1

特集

## 塑性加工メーカーの新事業戦略

巻頭インタビュー

遠州工業(株) 代表取締役社長 石井幹人氏 複数分野での独自技術でニッチトップを目指す

新連載

高品質とコスト競争を生み出すせん断加工と金型設計

好評連載

プレス加工を高度化するショットピーニング

## プレス関連自動化・省力化装置

AUTO  
TURNTABLE  
MYTEL



**SATSUKI**

サツキ機材株式会社  
SATSUKI KIZAI CO., LTD.

**Futaba**  
Group



## 第33回竹内記念・ニュー型研サロン 海外視察、後継者育成、新技術開発 などで講演

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市:内山真司社長:0463-93-7771)は「第33回竹内記念・ニュー型研サロン」を11月17日に東京都港区の日立金属・高輪和運館で開催した。同サロンは竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会。今回は三基精工(株)の山崎和彦社長、竹内型材研究所の永廣知史氏、(株)南雲製作所の南雲伸吾氏、(株)寺方工作所の寺方泰夫社長がそれぞれ講演した。

まず山崎社長と永廣氏が「海外視察研修 タイ視察を通し得たこと」と題し、講演。現地の日本法人企業や「インターモールドタイ展示会」などの見学を通して得たタイの経済状況や、また現地社員の気質や賃金の上昇状況、また職場環境整備の動向などを発表した。

次に南雲氏が講演したのは「経営後継者研修を受講して～やっと後継者として動き出す～」。中小企業大学の東京校で開催されている「後継者研修」に参加した際の体験談を語った。研修は最大10カ月職場を離れて自社の分析、リスクマネジメント分析、財務分析などを学ぶ。座学だけではなく参加者のグループで研究し発表までを行うグループワークや、研修OBの企業を訪問し、課題をこなす外部研修などもある。また「財務経営計画策定」や「リーダーシップマネジメント」などの研修生自身が後継者として強化したい分野を選びさらに深く学ぶこともできる。南雲氏は研修を通し、知識はもちろんのこと、時間管理や相手への話し方、また同じ製造業の後継者仲間や先輩を得ることができたとした。現在は同社の総務部に勤務しており「人事考課制度改革など、研修で得たものを活か

し、後継者として確かな一歩を進めたい」と次期リーダーとしての意気込みを述べた。

最後に寺方社長が「寺方工作所の技術開発の歩み」として講演した。同社は精密板鍛造による高精度な加工と、独自の加工技術開発で知られる鳥取県のプレス加工メーカー。地理の関係上、加工受注には不利であり、「他社と同じことはできない。工法転換の受注しかない、と思い決めた」と寺方社長は振り返った。その上で「一歩進んだ技術と精度」を目指し、さまざまな研究開発を推し進めると同時に人材育成にも力を注いだ。「一番大切なことはその仕事の意義をしっかりと社員に理解させること」と、困難な事業に打ち込む社員のモチベーションを保つ秘訣を語った。現在同社は従来より得意技術としてきた冷間鍛造技術でさらなる高精度な加工を目指し、独自の精密温度制御加工を確立。寺方社長は、「開発する、ということは必ず人が育つということ。これからもノウハウ独自技術の確立に努めたい」と同社の今後の方針を語った。

